

上演 2

2024年7月31日2校目
中国ブロック

山口県立下関中等教育学校

「レベル1の勇者」

第48回全国高等学校総合文化祭
第70回全国高等学校演劇大会

講評文

生徒講評委員会 担当委員

昭和薬科大学附属高校

高江洲真子

両親の離婚や廃部の危機に巻き込まれるといった災難をゲームの要素をうまく取り入れてコミカルに見せたことで、人生の危機という重い話題も自然に見ることができた。

「人生はクソゲーだ!!」このセリフから物語は始まる。「いいえ」と言えたらどれほど楽だろう。しかし、それが出来ない優日の現実。コンテニューで何度でも再スタートを切ることが出来るゲームの世界に憧れつつ、人生の選択に悩み苦しむ。途中、父親は攻略サイトを見ながらゲームを攻略しているが、用意された選択肢しか見ていなかったため、現実に戻ると妻との関係に四苦八苦する姿が描かれている。与えられた選択肢から選ぶだけで手に入る人生は、果たして本当の自分の人生だと言えるのか。自分の意思、選択がどれほどかけがえの無いものであるかが伝わった。

自身も親の示した選択を選んできたため、優日の環境や心情に共感出来ると話す講評委員もいた。そのように選んできたからこそ「いいえ」と発することの不安や恐ろしさが存在する。しかし、彼女の周囲には親だけではなく部員や先生という存在がいる。そうした選択権を自分に与えてくれる人々を大切にしていこうと考えさせられた。

また舞台では、世界観を形成する様々な大道具が並んでいた。ハリボテの街並み、モンスターをかたどった吊り物。場面転換中、照明や影を通してまるでゲームのロードを表しているかのような演出。音響では、主人公が追い詰められた焦りや戸惑い、緊張などの感情が客席にまで届いた。

この作品は、コンテニュー不可の現実を私たちに再認識させた。やり直したいと思うが繰り返すことの出来ない世界で、私たちは日々の生活の中でレベルアップしていく。人間関係に悩み苦しむ私たちだから、時には逃げるといった選択を取る勇気も大切にしなければならない。理不尽な人生だからこそ現状に満足せず、レベルをあげていこうと気付かされた作品だった。

